



2020年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2020年1月31日
上場取引所 東

上場会社名 株式会社 アールシーコア
 コード番号 7837 URL <http://www.rccore.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 二木 浩三
 問合せ先責任者 (役職名) 経理部責任者 (氏名) 壽松木 康晴 TEL 03-5790-6500
 四半期報告書提出予定日 2020年2月13日
 四半期決算補足説明資料作成の有無： 無
 四半期決算説明会開催の有無： 無

(百万円未満切捨て)

1. 2020年3月期第3四半期の連結業績（2019年4月1日～2019年12月31日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第3四半期	12,559	46.2	△199	—	△204	—	△223	—
2019年3月期第3四半期	8,587	△9.4	△780	—	△780	—	△536	—

(注) 包括利益 2020年3月期第3四半期 △263百万円 (—%) 2019年3月期第3四半期 △608百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第3四半期	△53.16	—
2019年3月期第3四半期	△127.50	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2020年3月期第3四半期	11,935	3,299	27.6	783.18
2019年3月期	11,833	3,794	32.1	900.81

(参考) 自己資本 2020年3月期第3四半期 3,299百万円 2019年3月期 3,794百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期	—	25.00	—	25.00	50.00
2020年3月期	—	25.00	—	—	—
2020年3月期（予想）	—	—	—	25.00	50.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無： 無

3. 2020年3月期の連結業績予想（2019年4月1日～2020年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	17,500	41.2	100	—	80	—	30	—	7.12

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無： 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2020年3月期3Q	4,508,700株	2019年3月期	4,508,700株
② 期末自己株式数	2020年3月期3Q	296,020株	2019年3月期	296,520株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2020年3月期3Q	4,212,248株	2019年3月期3Q	4,208,802株

（注）期末自己株式数には、株式給付信託口及び役員株式給付信託口が保有する当社株式（2020年3月期3Q 295,838株）が含まれております。また、株式給付信託口及び役員株式給付信託口が保有する当社株式を、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております（2020年3月期3Q 296,270株）。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見直し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績などは様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる仮定及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については、4ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9
3. 補足情報	10
生産・受注及び販売の実績	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、雇用や所得環境の改善傾向のもと、緩やかな回復基調が続きました。一方で、通商問題の動向が世界経済に与える影響や、海外経済の不確実性に加え、消費税率引上げ後の消費者マインドの動向には留意する必要がある状況です。

住宅市場においては、2019年4月～2019年11月の新設住宅着工数は前年同期比6.3%減（11月の季節調整済年率換算値83.4万戸）となるなか、戸建木造持家に係る新設着工数は同2.3%増で推移しています。

このような状況において、当社は中期3ヵ年計画の最終年度を迎え、「“業界最狂、ハピネス拡散”」のスローガンのもとBESSブランドの更なる成長に向け、邁進しております。

当社は、BESS事業をスタートさせて以来、ユーザー視点に立脚した経営に取り組み、住宅業界の常識に挑戦してきました。このような業界の「異端」とも言える姿勢を更に進化させる意味で、“最狂”を掲げています。“最狂”には、当社が理想とする「“狂”狷の道」（注）を進んでいくことで、多くの熱“狂”的とも言えるほどのBESSファンとともに大きく成長していきたいという思いを込めています。

(注)狂狷（きょうけん）：孔子の「論語」に由来し、狂者は進取の精神に富むいわば理想主義者、狷者は「できることでもやらないことがある」という強い信念の持ち主を意味し、当社では、理想を追い続け、意志を曲げないことを指しています。

<営業活動の状況>

A) 「商品面」の取り組み

- ・外の楽しさを家の中に自由に持ちこめる土間を、今回コンセプトを新たに木で仕上げ木土間として備えたカントリーログ（不常識人）のキャンペーンモデル「カスキュー」を2019年6月までの期間限定で販売しました。
- ・「小さく建てて、大きく暮らす」コンセプトのもと、外を暮らしの中心と考え、家、ウッドデッキ、更にログキャビン（IMAGO）を加え、既成概念を超えた暮らしを提案する「ワンダーデバイス・ギャング」を発売しました。
- ・おおらかな三角屋根と、空中に浮かぶ超ベランダ空間「NIDO(ニド)」が特長のG-LOG（なつ）のキャンペーンモデルとして、「イスカ」を2019年7月から12月末までの期間限定で販売しました。
- ・日本の感性が生きる「程々の家」の特別モデルとして販売していた倭様のモデルを拡充し、定番シリーズにしました。家のサイズにより「七色（なないろ）」「八風（やつかぜ）」「十露（そろ）」の3モデルを定番化し、2019年10月より発売しました。
- ・遊び心を取り込んだワンダーデバイスについて、より商品の個性を際立たせ、顧客の暮らし・生き方によって選ばれるよう、コンセプトの深化を反映した新たなプラン（間取り）を開発し、2019年10月より発売しました。

B) 「営業面」の取り組み

- ・2018年4月より展示場の呼称を改めLOGWAYとし、BESSならではの一連の取り組みを「LOGWAY戦略」と称し、更なるブランドの進化を進めています。LOGWAYでは、BESSの家に実際に住まれる方々が、LOGWAYコーチャーとしてBESSの暮らしを検討する方に、生の声を伝えます。LOGWAYコーチャー登録数は、2019年12月末現在850組を超えており、全国のLOGWAYで活躍されています。
- ・BESSの暮らしを検討する方を応援する制度として、2018年10月よりLOGWAYクラブを立ち上げました。会員向けの特別モデルの販売をはじめ、様々な会員特典を用意しています。2019年12月末現在の累計入会数は1,750組を超え、多くのBESSファンが入会されています。
- ・全国のLOGWAYを更に盛り上げる一斉イベントとして「LOGWAYフェスタ」を2019年9月から11月の期間で実施しました。また、2020年1月からは「好きで、てまひまBESSライブ」イベントを全国一斉で実施します。薪ストーブやDIY、ウッドデッキなどのBESSならではの暮らしについて、LOGWAYコーチャーから話を聞き、一緒に体験して頂くなど、BESSの暮らしを訴求しています。

C「生産面」の取り組み

- ・施工、物流、設計、情報、購買の5つのテーマを掲げて生産面を大幅に変革する「生産革新」に取り組んできました。これを2018年4月より「BH（BESS Housing）生産システム」と名づけ、供給部材の取扱いを拡充し、従来のキットという呼称から部材パッケージと改め、特に施工・物流面では「ログハウス施工現場の負担軽減」を実現してきました。更に、今後の受注拡大に向けて、提携工場の拡充等による生産性及び物流効率の向上に取り組んでいます。

＜業績先行指標の状況＞

- ・全国BESS LOGWAY（展示場）への集客面では、前期はBESS多摩のオープンで来場が急増したこと等があり、新規来場者数は前年同期比16.5%減、再来場者数は同12.8%減となりました。しかし、LOGWAYコーチャーを核とするLOGWAY戦略が本格的に稼働し始め、BESSの家の建築を希望する方を応援する制度であるLOGWAYクラブの会員数は順調に増加しております。
- ・LOGWAY展開については、2019年4月にBESS山形及びBESS大分、2019年12月にBESS熊本及びBESS新潟が営業終了となり、現在の稼働拠点数は41拠点です。なお、BESS熊本及びBESS新潟については、子会社又は地区販社による営業再開を検討しております。また、2020年夏頃には福岡地区（福岡県）にて、新規オープンを予定しております。
- ・営業体制は、BESS事業全体（販社含む）の専任営業員数（BESS専任の営業として在籍する営業員数）は164名と前期末より3名減となりました。今後、本部・販社一体となって体制の強化を進めてまいります。

＜その他の取り組み＞

- ・BP社において、拠点経営の自立化を促す目的で2019年4月に会社分割を行い、同社の札幌営業所及び岐阜営業所を、株式会社BESS札幌及び株式会社BESS岐阜にそれぞれ継承しました。両社については、その重要性に鑑み、いずれも第1四半期連結会計期間から当社の連結子会社としました。
- ・コーポレートガバナンスに関する取り組みとして、独立社外取締役を主要な構成員とする報酬諮問委員会を取締役会の決議により設置し、役員報酬に係る取締役会の機能の独立性、客観性及び説明責任を強化することとしました。

＜連結業績の概要＞

当第3四半期連結累計期間における連結売上高は、前期にオープンしたBESS多摩における契約（受注）が当期より売上に寄与し始めたことや、本部・販社一体となり売上回転を高める取組みを行ったこと等により、前年同期比46.2%増の12,559百万円となりました。

利益面においては、連結営業損失199百万円（前年同期は780百万円の損失）となり、連結経常損失が204百万円（同780百万円の損失）となりました。また、親会社株主に帰属する四半期純損失は223百万円（同536百万円の損失）となりました。これは、第1四半期まで、前期からのカナダ材の調達難に端を発する納品の遅れ、及びBESS以外の事業により経営難に陥った販社からBP社が承継した6拠点の先行経費負担等の影響を受けたことによるもので、当第3四半期連結会計期間は、第2四半期連結会計期間に続いて、前年同期比大幅な増収に伴い黒字化するなど、業績回復に努めております。

連結契約（受注）高においては、11,204百万円（前年同期比16.0%増）、期末契約（受注）残高は13,333百万円となりました。

（報告セグメントの業績概要）

当社グループの単一事業であるBESS事業は、暮らしのブランド『BESS』のもと、“「住む」より「楽しむ」”をスローガンに、個性的で楽しい暮らし方のデザインにまで踏み込んで開発した企画型住宅（＝ログハウス等の自然派個性住宅）の提供を行っております。住宅引渡時点での顧客満足以上に、暮らしをスタートさせた後の顧客の「“ユーザー・ハピネス”の実現」を使命としています。

その業績概要については、以下の3つの報告セグメントに区分されます。

①直販部門

連結売上高の29.7%（外部顧客売上高ベース）を占める直販部門は、東京都・代官山の「BESSスクエア」、東京都・昭島の「BESS多摩」及び神奈川県「BESS藤沢」の直営3拠点で、東京・神奈川圏を中心とする顧客との直接の工事元請契約によるBESS企画型住宅等の提供を主要事業としております。

当第3四半期連結累計期間におけるセグメント売上高は、2018年4月にオープンしたBESS多摩の契約（受注）が売上・利益に貢献し始めたこと等から3,733百万円（前年同期比42.0%増）となり、セグメント利益は238百万円（前年同期は106百万円の損失）となりました。拠点のチーム力向上を目指した組織変更を行い、営業・設計・技術一体で生産力の向上に取り組んでいます。

また、セグメント契約（受注）高は、3,797百万円（前年同期比8.1%増）となりました。

②販社部門

連結売上高の46.7%を占める販社部門は、全国の地区販社に対して、BESSブランドと販売システム等を提供するとともに、BESS企画型住宅の部材パッケージ等を供給する事業を行っております。

当第3四半期連結累計期間においては、本部・販社一体となった売上回転の向上を目指した結果、セグメント売上高は7,164百万円（前年同期比35.0%増）となり、セグメント利益は736百万円（同48.4%増）となりました。一層の工期短縮に努め、更なる売上回転力の向上を目指します。

また、セグメント契約（受注）高は、B P社拠点の増加に伴いセグメント間取引の割合が増加したことなどから、3,996百万円（同13.0%減）となりました。

③株式会社BESSパートナーズ

連結売上高の23.6%を占める国内連結子会社のB P社は、金沢（石川県）、熊谷（埼玉県）、水戸（茨城県）、つくば（茨城県）、富士（静岡県）、静岡中部（静岡県）、浜松（静岡県）、東愛知（愛知県）に加え、その連結子会社である株式会社BESS札幌が担う札幌（北海道）、同じく株式会社BESS岐阜が担う岐阜（岐阜県）の合計10地区のBESS LOGWAYを営業拠点として、顧客との直接の工事元請契約によるBESS企画型住宅の提供を主要事業としております。

当第3四半期連結累計期間におけるセグメント売上高は、前期に承継した6拠点の契約（受注）が売上に貢献し始め、2,997百万円（前年同期比102.7%増）となりましたが、同承継拠点における先行経費負担等によりセグメント損失は197百万円（前年同期は116百万円の損失）となりました。これらの承継拠点においては、契約（受注）残の売上進捗に伴って今後収益貢献に転じる見込みですが、体制整備に手間取り、やや遅れを生じております。

セグメント契約（受注）高は、上記承継拠点による契約（受注）増加の影響等から3,410百万円（前年同期比119.7%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の総資産は前連結会計年度末比で102百万円増加の11,935百万円、負債は同597百万円増加の8,636百万円、純資産は同495百万円減少の3,299百万円となりました。それぞれの主な増減要因につきましては、次の通りです。

総資産につきましては、「現金及び預金」が前連結会計年度末比で443百万円、「仕掛販売用不動産」が83百万円、それぞれ増加した一方、前連結会計年度末では未収法人税、未収消費税を含んでいた流動資産の「その他」が248百万円、「投資その他の資産」のうち投資有価証券が95百万円、それぞれ減少したこと等によります。

負債につきましては、「短期借入金」が前連結会計年度比で548百万円、「買掛金及び工事未払金」が前連結会計年度末比で163百万円、それぞれ増加したこと等によります。

純資産につきましては、「親会社株主に帰属する四半期純損失」223百万円の計上及び利益配当を225百万円実施したこと等によります。

その結果、自己資本比率は27.6%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2020年3月期の連結業績予想につきましては、当第3四半期連結累計期間における連結業績及び最近の業績動向等を踏まえて、2019年5月13日に公表した予想を本日修正しました。詳しくは、本日発表の「通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,089,669	3,532,807
売掛金及び完成工事未収入金	1,691,121	1,710,692
商品	561,152	533,429
貯蔵品	73,621	79,623
販売用不動産	35,185	34,655
仕掛販売用不動産	201,900	285,346
未成工事支出金	66,893	83,840
その他	527,409	278,888
流動資産合計	6,246,954	6,539,284
固定資産		
有形固定資産		
土地	3,167,796	3,167,796
その他	2,268,493	2,223,113
減価償却累計額	△1,143,194	△1,204,549
その他（純額）	1,125,299	1,018,564
有形固定資産合計	4,293,095	4,186,360
無形固定資産		
その他	196,939	225,488
無形固定資産合計	196,939	225,488
投資その他の資産		
その他	1,112,730	1,000,565
貸倒引当金	△16,279	△16,064
投資その他の資産合計	1,096,451	984,500
固定資産合計	5,586,486	5,396,349
資産合計	11,833,441	11,935,634

(単位:千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金及び工事未払金	1,553,481	1,716,575
短期借入金	1,050,000	1,598,200
1年内返済予定の長期借入金	596,123	560,352
未払法人税等	779	46,650
前受金及び未成工事受入金	888,269	930,779
アフターサービス引当金	51,680	42,630
賞与引当金	19,441	105,368
役員賞与引当金	—	6,450
ポイント引当金	137,164	134,860
その他	883,306	770,455
流動負債合計	5,180,244	5,912,324
固定負債		
長期借入金	2,070,242	1,910,372
長期未払金	167,191	167,191
退職給付に係る負債	78,384	79,523
長期アフターサービス引当金	46,566	49,649
株式給付引当金	22,205	26,636
役員株式給付引当金	41,707	59,166
資産除去債務	195,668	206,758
その他	236,850	224,710
固定負債合計	2,858,818	2,724,008
負債合計	8,039,063	8,636,333
純資産の部		
株主資本		
資本金	660,764	660,764
資本剰余金	719,305	719,305
利益剰余金	2,710,333	2,254,068
自己株式	△331,872	△331,332
株主資本合計	3,758,530	3,302,806
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	48,690	—
繰延ヘッジ損益	△12,843	△3,505
その他の包括利益累計額合計	35,847	△3,505
純資産合計	3,794,378	3,299,301
負債純資産合計	11,833,441	11,935,634

（2）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

（四半期連結損益計算書）

（第3四半期連結累計期間）

（単位：千円）

	前第3四半期連結累計期間 （自 2018年4月1日 至 2018年12月31日）	当第3四半期連結累計期間 （自 2019年4月1日 至 2019年12月31日）
売上高	8,587,953	12,559,324
売上原価	6,205,371	9,336,456
売上総利益	2,382,581	3,222,868
販売費及び一般管理費	3,162,704	3,422,334
営業損失（△）	△780,123	△199,465
営業外収益		
受取利息及び配当金	5,349	6,472
販売協力金	9,805	4,262
資産受贈益	14,752	—
損害賠償金	—	27,496
その他	8,112	8,938
営業外収益合計	38,019	47,171
営業外費用		
支払利息	15,897	21,092
支払手数料	20,500	500
請負契約引受損	—	28,746
その他	1,637	1,380
営業外費用合計	38,035	51,719
経常損失（△）	△780,139	△204,013
特別利益		
投資有価証券売却益	79,000	77,307
特別利益合計	79,000	77,307
税金等調整前四半期純損失（△）	△701,139	△126,705
法人税等	△164,514	97,232
四半期純損失（△）	△536,624	△223,937
親会社株主に帰属する四半期純損失（△）	△536,624	△223,937

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
四半期純損失(△)	△536,624	△223,937
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△48,274	△48,690
繰延ヘッジ損益	△23,352	9,338
その他の包括利益合計	△71,626	△39,352
四半期包括利益	△608,250	△263,290
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△608,250	△263,290

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I. 前第3四半期連結累計期間（自 2018年4月1日 至 2018年12月31日）

報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結損益計 算書計上額 (注) 2
	直販部門	販社部門	B P社	計		
売上高						
外部顧客への売上高	2,624,490	4,503,485	1,459,977	8,587,953	—	8,587,953
セグメント間の内部 売上高又は振替高	3,716	802,271	18,958	824,947	△824,947	—
計	2,628,207	5,305,757	1,478,935	9,412,900	△824,947	8,587,953
セグメント利益又は 損失 (△)	△106,281	496,373	△116,174	273,917	△1,054,040	△780,123

(注) 1 セグメント利益又は損失の調整額には、セグメント間取引の消去△121,703千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△932,337千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

II. 当第3四半期連結累計期間（自 2019年4月1日 至 2019年12月31日）

報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結損益計 算書計上額 (注) 2
	直販部門	販社部門	B P社	計		
売上高						
外部顧客への売上高	3,730,005	5,861,166	2,968,153	12,559,324	—	12,559,324
セグメント間の内部 売上高又は振替高	3,028	1,303,714	29,583	1,336,326	△1,336,326	—
計	3,733,033	7,164,880	2,997,736	13,895,651	△1,336,326	12,559,324
セグメント利益又は 損失 (△)	238,260	736,799	△197,258	777,801	△977,267	△199,465

(注) 1 セグメント利益又は損失の調整額には、セグメント間取引の消去△47,130千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△930,137千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

3. 補足情報

生産・受注及び販売の実績

(1) 前第3四半期連結累計期間（自 2018年4月1日 至 2018年12月31日）

受注実績及び販売実績

セグメント 区分	品目名称	前連結会計 年度繰越高 (千円)	当第3四半 期連結累計 期間契約高 (千円)	計 (千円)	当第3四半 期連結累計 期間販売高 (千円)	次期繰越高		当第3四半 期連結累計 期間施工高 (千円)
						契約残高 (千円)	うち施工高 (千円)	
直販部門	ログハウス等部材 パッケージ販売	58,831	47,393	106,224	72,960	33,264	—	—
	ログハウス等工事	3,487,311	3,456,352	6,943,663	2,412,081	4,531,582	166,159	2,547,419
	その他	448	9,808	10,256	137,995	—	—	—
	(小計)	3,546,591	3,513,553	7,060,145	2,623,036	4,564,847	166,159	2,547,419
販社部門	ログハウス等部材 パッケージ販売	3,788,086	4,593,443	8,381,529	3,867,484	4,514,045	—	—
	その他	—	—	—	637,765	—	—	—
	(小計)	3,788,086	4,593,443	8,381,529	4,505,249	4,514,045	—	—
B P 社	ログハウス等部材 パッケージ販売	—	4,099	4,099	3,224	875	—	—
	ログハウス等工事	1,596,761	1,548,294	3,145,056	1,454,156	1,690,900	22,256	1,452,768
	その他	—	—	—	2,286	—	—	—
	(小計)	1,596,761	1,552,393	3,149,155	1,459,667	1,691,775	22,256	1,452,768
合計	8,931,439	9,659,390	18,590,830	8,587,953	10,770,667	188,416	4,000,187	

- (注) 1 前連結会計年度以前に契約したもので、契約の更改等により金額に変更のあるものについては、当期契約高に含めております。
- 2 次期繰越高のうち施工高については、未成工事支出金により手持工事の施工高を推定したものであります。
- 3 「ログハウス等工事」の施工高は（売上高＋次期繰越施工高－前期繰越施工高）に一致しております。
- 4 各部門の「その他」（販促物販売収入等）は、契約高の繰越管理を行っておりませんので、「前期繰越高」「当期契約高」及び「次期繰越高」の欄の記載は行っておりません。

(2) 当第3四半期連結累計期間（自 2019年4月1日 至 2019年12月31日）
受注実績及び販売実績

セグメント 区分	品目名称	前連結会計 年度繰越高 (千円)	当第3四半 期連結累計 期間契約高 (千円)	計 (千円)	当第3四半 期連結累計 期間販売高 (千円)	次期繰越高		当第3四半 期連結累計 期間施工高 (千円)
						契約残高 (千円)	うち施工高 (千円)	
直販部門	ログハウス等部材 パッケージ販売	24,604	141,366	165,971	81,635	84,335	—	—
	ログハウス等工事	5,317,516	3,642,161	8,959,678	3,507,207	5,452,470	106,813	3,540,984
	その他	—	14,049	14,049	141,163	—	—	—
	(小計)	5,342,120	3,797,577	9,139,698	3,730,005	5,536,806	106,813	3,540,984
販社部門	ログハウス等部材 パッケージ販売	4,634,225	3,996,721	8,630,946	5,262,625	3,368,321	—	—
	その他	—	—	—	598,540	—	—	—
	(小計)	4,634,225	3,996,721	8,630,946	5,861,166	3,368,321	—	—
B P 社	ログハウス等部材 パッケージ販売	—	5,732	5,732	5,732	—	—	—
	ログハウス等工事	3,984,642	3,404,800	7,389,442	2,960,782	4,428,660	7,180	2,950,089
	その他	—	—	—	1,638	—	—	—
	(小計)	3,984,642	3,410,532	7,395,175	2,968,153	4,428,660	7,180	2,950,089
合計		13,960,989	11,204,831	25,165,820	12,559,324	13,333,789	113,993	6,491,073

- (注) 1 前連結会計年度以前に契約したもので、契約の更改等により金額に変更のあるものについては、当期契約高に含めております。
- 2 次期繰越高のうち施工高については、未成工事支出金により手持工事の施工高を推定したものであります。
- 3 「ログハウス等工事」の施工高は（売上高＋次期繰越施工高－前期繰越施工高）に一致しております。
- 4 各部門の「その他」（販促物販売収入等）は、契約高の繰越管理を行っておりませんので、「前期繰越高」「当期契約高」及び「次期繰越高」の欄の記載は行っておりません。